



合同教育研究全道集会2014

11月8日(土)～9日(日) 会場 札幌学院大学

●テーマ討論 (仮題) 【8日 9:45～12:15】

- ① 「暮らしの中の憲法」を広げるために
- ② 「若者の労働実態」と生きる権利としての労働教育
- ③ 「格差の拡大と貧困」、子どもたちの現状はどうなっているのか
- ④ 「豊かな学び」をつくっていくために
- ⑤ 学校、地域で「アイヌ民族」を学ぶ

●分科会 【8日 13:30～16:15/9日 9:30～15:00】

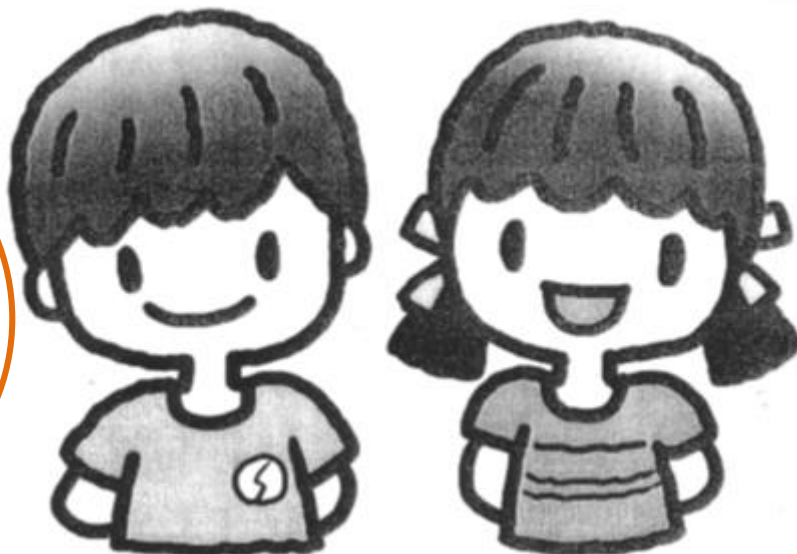
●教育の夕べ 【8日 16:35～18:30】

「憲法改悪と安倍『教育再生』にどう立ち向かうか」

名古屋大学大学院教授 中嶋 哲彦 さん



平和を守り真実を知らぬく民主教育の確立をめざして



子育てのこと、
学校のこと、みんなで
話し合いませんか。
「合同教研」は毎年、
全道から子育てや教育に
かかわる人々が集まって
開催されている
誰でも参加できる
教育研究集会です。

■主催 2014 合同教育研究全道集会実行委員会 ■連絡先・事務局 (北海道高等学校教職員センター内)
〒060-0042 札幌市中央区大通西12丁目 TEL/011-231-0816 FAX/011-241-8510
HP/www.goken-hokkaido.jp

●分科会のご案内 【8日 13:30～16:15 / 9日 9:30～15:00】

<p>1 国語教育 (50)</p> <p>学習指導要領の改訂によって、改憲につながる愛国心・道徳教育が強調されています。平和教材のあり方と指導法についての研究交流を進め、子どもに真の生きる力を育てる「授業づくり」を明らかにしていきましょう。</p>	<p>7 書教育 (30)</p> <p>書は人なりで、筆で書かれた文字にはその人柄が現れます。子どもたちの環境が大きく変わろうとしている今、伸びやかな文字を書き続けさせたい。そんな思いをお持ちの多くの方のご参加をお待ちいたしております。</p>
<p>2 外国語教育 (40)</p> <p>生徒の学力の実態、外国語教育の現状、外国語教育の内容・方法などレポートをもとに意見交流を積み重ねてきました。生徒、教員、授業の様子など幅広いレポートを通して観察し、意見交流ができればと考えています。</p>	<p>8 音楽教育 (30)</p> <p>音楽は、人が豊かに生きていくために欠かすことのできない文化です。音楽の授業は、子どもと教師が教材を真ん中にして文化を育む場です。ささやかでも、普段着の実践を持ち寄り、語り、歌い、学び合しましょう。</p>
<p>3 社会科教育 (60)</p> <p>人格の完成をめざすべき教育が国家目的に奉仕されようとし、閣議決定により平和憲法が骨抜きになる事態が進行しています。こんな時代だからこそ、民主主義・平和・人権保障の実現について考えあいたいのです。</p>	<p>9 技術・職業教育 (30)</p> <p>企業モラルの低下、労働問題、電力会社の問題など、技術職業教育の必要性は強く求められています。中学校技術では、「ものづくり」の重要性が社会問題化されています。本当のキャリア教育について学びませんか。</p>
<p>4 数学教育 (50)</p> <p>「わかる・できる・楽しい」数学の授業づくりを願う方、授業に関心を持たれる方に心地よい素敵な刺激を贈る集いです。自由な雰囲気でお話し合い、見晴らしの良い数学と数学教育の世界を味わえる魅力ある学び場です。</p>	<p>10 家庭科教育 (30)</p> <p>生命と生活の再生産にかかわる学習を担う家庭科は、子どもが直面する生活の困難にどのように迫り、何を提起していくべきなのでしょう。現在と将来にわたる生活の主人公を育てるため、大いに意見交換しましょう。</p>
<p>5 理科教育 (40)</p> <p>北海道の子どもが自然科学を豊かに学ぶことができるよう、授業づくり、実験やものづくり教材の開発、地域の自然の教材化について語り合しましょう。21世紀の北海道で展開すべき自然科学教育を明らかにしていきましょう。</p>	<p>11 保健・体育教育 (50)</p> <p>教育が「学力」に偏重する中、子どもの現状を語り合い、いかに子どもの命や体を守り育てていくのか交流しましょう。また、食・健康・運動文化の主人公に相応しい力をすべての子どもに保障する教育を考えましょう。</p>
<p>6 美術教育 (30)</p> <p>「見て、聞いて、感じて」子どもたちが自らの表現として創作するのが美術教育の根幹です。保育園から高校まで幅広い年代の児童生徒の作品を囲んでノウハウを交換し、より良い実践に結び付けられる分科会です。</p>	<p>12 総合学習・生活科 (30)</p> <p>地域とともに学ぶこと、地域と関わる活動の有用性を確かめ合う教育実践が各地で実践されています。つながりをもとに学びを紡ぐ、総合的な学習・生活科の本質を語り考え合しましょう。</p>

分科会名 横の()内の数字は、各自で印刷・持参いただくレポート部数です。

子ども・青年の未来に希望をはぐくむために 憲法・子どもの権利条約の息づく学校と社会を

13 教育課程と子どもの学力評価 (40)

安倍「教育再生」の押し付けに抗し、子どもたちの「学びたい」という願いに応える教育課程を、教職員・子ども・保護者・地域が力を合わせてつくっていくために、お互いの実践や思いを交流しましょう。

19 国民のための大学づくり (40)

大学の改革に共通するのは、長期的な視点から科学や文化の継承・発展を行っていくことではなく、目先の利益にとらわれていることです。改革の実態や影響、大学の国民的なあり方について考えていきましょう。

14 学校と家庭の生活指導 (40)

学校現場を席卷するゼロトレランス・道徳の教科化、そして、貧困・格差が広がる社会の中で子どもたちの声を聞きとり、どのような生活指導実践が必要なのか探ります。

20 障害児・障害者の教育と福祉 (130)

障害者権利条約が 2014 年に批准されました。今後、国内法の整備、合理的配慮をもって障がい者の方々の権利が保障されていくことが重要です。今こそ発達保障という観点を教育・福祉の現場で再確認しましょう。

15 教育条件確立の運動 (30)

ゆきとどいた教育の実現には、「人・物・予算」の裏付け、すなわち教育条件整備が不可欠です。教育予算や教育費負担、学校統廃合、教職員定数増と労働条件改善など、切実な課題について学び、語り合しましょう。

21 環境・公害と教育 (30)

公害問題から出発し、自然・環境問題、学校での自然保護教育・環境教育のあるべき姿を探ってきました。東日本大震災、原発事故に関連し、地震や津波、がれき処理、エネルギー政策などについても討論しましょう。

16 子ども、父母参加の学校づくり (30)

様々な課題をかかえる子どもたちの実態や学校現場の実態を語り合しましょう。そして、教職員や保護者、地域の共同、子どもたちの学校づくりへの参加について、大いに交流し、学び合しましょう。

22 平和・憲法、人権・民族と教育 (40)

「戦争のできる国づくり」が始まっています。戦後69年をむかえ「文化としての平和」を世界に広める時期をむかえています。実践と理論を学びあいましょう。また、アイヌ民族教育の新しいあり方を考えましょう。

17 地域における子育て・学習運動 (40)

次年度より施行される「子ども・子育て支援新体制」は、公的責任の後退など各方面から問題点が指摘されています。新体制で地域の子育てはどうなるのか。その内容を検証し、私たちが求める子育て支援を考えます。

23 子ども・青年の発達と教育 (40)

本来、子ども・青年期の成長と発達は人間形成の基礎土台をめざす営み。しかし、現状は、学力向上ばかりが教育行政により声高に叫ばれています。子どもの声・日々の実践を持ち寄り、夢と希望を創造していきましょう。

18 地域と学校の文化・スポーツ活動 (20)

子どもたちは、文化・スポーツ活動を通して人間性が育ちます。人間を育てる豊かな文化・スポーツ活動を学校・地域でどのように展開していくか、話し合しましょう。

24 不登校・登校拒否・高校中退 (50)

大人たちは学校に登校するものだと思います。それが子どもたちを追いつめ、悲鳴をあげていることに鈍感すぎます。教師と当事者、保護者の相互理解や教育支援と一歩進めて地域の理解を広げるため集まりましょう。

ごあんない

子どもを中心にした 教育・学校を！

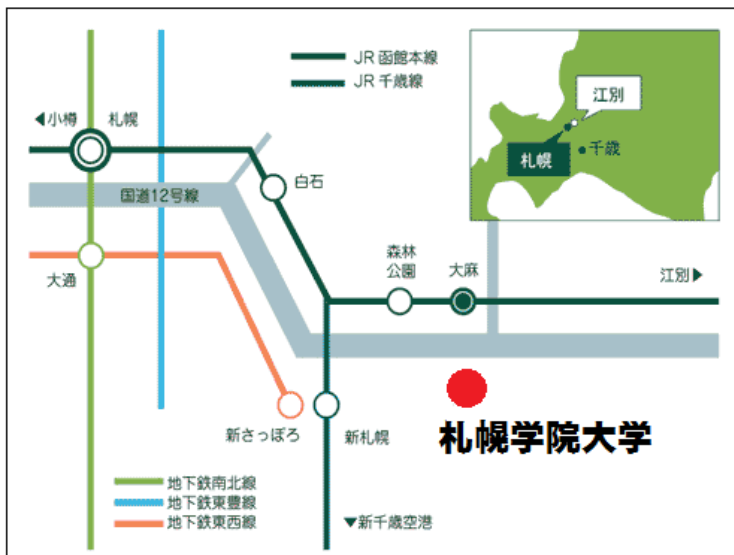


●ともに学び・語り合きましょう

合同教育研究全道集会は、「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして」、1976年の第1回開催以来、道内の教育関係者、父母、道民が集い、40年近い歴史を刻んできました。合同教研につどい、子どもたちの未来と憲法と子どもの権利条約が息づく学校と社会を築くためにどうしたらよいか、ともに学び、語り合きましょう。

- 「教育の夕べ」は参加費 500 円が必要です
- 会場には保育所を用意しています。申し込み、お問い合わせは事務局へお願いします
- 障害の抱えられている方の参加は、会場準備の関係上あらかじめ事務局へご連絡ください
- 昼食は、学校生協の売店、または学食をご利用ください

●会場案内 札幌学院大学（江別市文京台11）



- ◇JR を利用した場合
札幌駅（江別方面行）⇒大麻駅（徒歩10分）
- ◇バスを利用した場合
新札幌バスターミナル（JRバス・夕鉄バス）発⇒学院大正門前、または北翔大学前・札学院大前
- ◆会場には駐車場をご用意しておりません。公共交通機関でお越しください

●レポート参加される方へ

1. 教職員の日々の実践や子ども、教育の様子など簡単なものでかまいません。
2. レポート参加する場合、各合研加盟団体を通じて合研事務局へ連絡してください。
加盟団体以外のレポート参加は、合研HPに掲載の「エントリーシート」で報告してください。
3. レポートの作成方法・注意事項
 - ・レポートはA4版で表紙には「テーマ」「分科会」「所属・氏名」を明記してください。
 - ・レポートは各自が印刷しご持参ください。（部数はP2-P3 分科会名 横の「レポート部数」参照）
 - ・プライバシー侵害の恐れがありますので、実名記載は避け個人が特定されないようご配慮ください。
 - ・レポートの「非公開」を希望する場合、表紙に朱書きで「非公開」と明記してください。
 - ・レポート発表に使用する機材は、必要最小限でお願いします（発表時間等を考慮の上、どうしても必要なもの）。必要な場合、あらかじめ事務局へお申し出ください。
4. その他詳細については、合研HP www.goken-hokkaido.jp をご覧ください。